

著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌 等又は発表学会等 の名称	概 要
1 (学術論文) Effect of seleno-L-methionine on oxidative stress in the pancreatic islets of a short-term induced diabetic mouse model in insufficient selenium status	共著	平成 30 年 1 月	Biological and Pharmaceutical Bulletin, 41(1), pp. 80-85 日本薬学会	実験的糖尿病マウスモデルを用いて、セレノメチオニンによる耐糖能改善作用機序を検証した結果、この化合物は膵臓におけるセレン状態を高めることによって膵臓における酸化的ストレスを抑制するものの、この作用によってインスリンの分泌を高めるのではなく、脂肪組織などのインスリン標的組織に直接作用することによって耐糖能を改善することを示した。(6 頁) (上野 仁, 清水 良, 奥野智史, 荻野泰史, 荒川友博, 村野晃一, 中室克彦) 担当部分: 共同研究につき本人担当部分抽出不可能
2 (学術論文) Allergies are aggravated by mild selenium deficiency and abrogated by supplementation with selenomethionine	共著	平成 26 年 10 月	Food and Agricultural Immunology, 25(4), pp. 477-485 Taylor and Francis	皮膚アレルギーモデルである NC/Nga マウスを用い、食餌から微量栄養元素であるセレンを欠乏させたマウスは皮膚アレルギーが増悪し、食品中に多く含まれる化学形態であるセレノメチオニンを飼料に添加するとマウスの皮膚アレルギーが抑制されることを示した。(9 頁) (坂崎文俊, 荒川友博, 清水 良, 荻野泰史, 奥野智史, 上野 仁) 担当部分: 共同研究につき本人担当部分抽出不可能
3 (学術論文) Iodotyrosine deiodinase, a novel target of environmental halogenated chemicals for disruption of the thyroid hormone system in mammals 《筆頭論文》	単著	平成 26 年 9 月	Biological and Pharmaceutical Bulletin, 37(9), pp. 1430-1434 日本薬学会	ハロゲン含有環境化学物質の哺乳類における甲状腺ホルモン系へのかく乱作用について、既報の知見の他、脱ヨウ素化酵素の一種であるヨードチロシン脱ヨウ素化酵素がこのような化学物質の新規ターゲットとなるという自身が明らかにした新規知見を紹介した。(5 頁) (清水 良) 担当部分: 単著
4 (学術論文) Effects of administering sodium selenite, methylseleninic acid, and seleno-L-methionine on glucose tolerance in a streptozotocin/nicotinamide-induced diabetic mouse model	共著	平成 26 年 9 月	Biological and Pharmaceutical Bulletin, 37(9), pp. 1569-1574 日本薬学会	種々のセレン化合物について、実験的糖尿病マウスモデルにおける耐糖能改善効果を検討した結果、セレノメチオニンが最も高い耐糖能改善効果を示す可能性を見出した。また、この耐糖能改善効果と膵臓におけるセレン状態との相関性が認められた。(5 頁) (上野 仁, 清水 良, 奥野智史, 荻野泰史, 荒川友博, 坂崎文俊, 中室克彦) 担当部分: 共同研究につき本人担当部分抽出不可能
5 (学術論文) Structure-activity relationships of 44 halogenated compounds for iodotyrosine deiodinase-inhibitory activity 《筆頭論文》	共著	平成 25 年 12 月	Toxicology, 314(1), pp. 22-29 ELSEVIER	甲状腺ホルモン代謝酵素であるヨードチロシン脱ヨウ素化酵素のハロゲン含有環境化学物質による阻害作用と構造活性相関を検討し、この酵素が、芳香環、水酸基およびハロゲン基を有する環境化学物質(環境汚染物質 PCB、臭素化難燃剤 PBDE の他、一部の医薬品、農薬、動物用駆虫薬、食品添加物など)によって阻害されることを明らかにした。(8 頁) (清水 良, 山口雅史, 浦丸直人, 黒木広明, 太田 茂, 北村繁幸, 杉原数美) 担当部分: 共同研究につき本人担当部分抽出不可能